



2012年9月9日発行

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13



ご挨拶

今年7月12日、熊本県内はこれまでに経験したこともない豪雨に見舞われ、白川流域は各所で浸水被害を引き起こしました。阿蘇地区では土砂災害で多くの方々が犠牲になりました。ご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

私達も災害直後から国、県に災害復旧や治水対策を急ぐことを申し入れております。

一方では、水害が起こった事実をとらえ、これに対処するには立野ダムが必要であるとの声も上がっております。特に自由民主党熊本市議団は、「立野ダム建設推進を求める意見書」を熊本市議会として内閣総理大臣および国土交通大臣に提出しようとしています。しかし立野ダムは、熊本市をはじめ白川流域住民の生命財産を危険にさらす可能性が極めて大きいと私たちは考えるのです。

まず、ダムにたよる治水は、想定値に対してのみ有効（これも疑問があります）であり、今回の7.12洪水のような想定以上の豪雨ではダム湖は満水となり、洪水調節機能は全く働かなくなります。また、立野ダム建設予定地の地層は極めて軟弱で、ダム周辺の地盤の崩壊やダム崩壊の危険さえ考えられるのです。最悪の場合の大津町、菊陽町、熊本市の惨状を思うと、身の震える思いがします。

私どもは、治水にダムは使ってはならないと考えます。日本全国どのダムも、計画から完成まで20年～50年かかっています。今回の7.12白川水害も、立野ダム計画があるために、ダムとは関係なく実施すべき河川整備工事がおろそかになっており、熊本市内の浸水被害はすべてこの怠慢に起因しています。

また、白川中流域である大津町、菊陽町も、昭和28年の大水害後の復旧工事のあと何もやってこなかったため、護岸がえぐり取られ、各所で白川があふれています。

白川の治水を考えるには、集水域の多くを占める阿蘇カルデラ内に注目すべきです。ここでは河川改修以外にも、降った雨を一時遊水地や水田などに貯留し時間をかけて白川・黒川に流入させるなど、総合的な治水方策を検討しなければなりません。また、放置人工林の間伐を進めるなど、土砂災害対策が早急に必要です。

ご承知の通り、阿蘇は国立公園です。ダム予定地も当然国立公園内です。その上、ダム水没予定地左岸の北向谷原始林は、極めて文化価値が高いとして特別天然記念物に指定されています。立野ダムによって、このような大切なところが失われようとしています。

白川流域の治水は、やるべき対策から早急にやっていくことが大切です。熊本の宝を守るためにも立野ダムは絶対造らせてはなりません。全力を尽くしていきたいと思っております。

2012年9月5日 立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康

北向谷原始林シンポジウムを開きました！



北向谷原始林内で 2012.7.28

7月28日、自然環境保護の第一人者である広島フィールドミュージアムの金井塚務さんをお招きして、北向谷原始林の現地調査を行いました。大津町の岩戸神社から約2時間かけて登山道を登り、北向谷原始林に入った途端、森の雰囲気が一変しました。地面は落葉でスポンジのようにふかふかで、シイやカシの大木が空を覆っていました。

翌29日は朝から対岸の旧戸下温泉（立野ダム水没予定地）から北向谷原始林を調査。ダムにより水没してしまう「水際」が最も重要であることが分かりました。

ダム本体予定地は今回の洪水で工事用道路が流されて行けませんでしたので、下流の黒川発電所側から見学しました。

29日午後は、大津町のオークスプラザでシンポジウムを開き、金井塚務さんが講演。立野ダム計画について、「生物多様性を持つ北向谷原始林の重要な部分が水没する。絶対に建設してはならない」と強調。「北向谷を核に、周辺に大規模な自然林を再生し、環境教育普及活動を展開する拠点にしてほしい」と提案しました。



北向谷原始林シンポジウム 2012.7.29

●会計報告(会設立準備～2012年8月31日まで)

収入の部	金額	備考
年会費・カンパ	395,200	
合計	395,200	

支出の部	金額	備考
郵送費	66,020	会報発送、資料発送
情報公開費	8,770	収入印紙代
事務用品費	22,464	紙代、封筒代、プリンターインク代
講師謝礼・交通費	60,000	北向谷シンポジウム
その他	11,770	会場費、印刷機使用料など
合計	169,024	

(収入) 395,200 - (支出) 169,024 = 226,176

●会員拡大にご協力ください！

「立野ダムによらない自然と生活を守る会」は、皆様方の年会費とご寄付のみで運営しております。活動を広げていくために、今後も会員を拡大していきたいと思っております。今回も、これまでダム問題に関する集会に参加されてきた方などに会報をお送りしました。年会費は一口1000円です。ご支援ご賛同のほど、よろしくお願い申し上げます。すでに会費を納入された方は、会員拡大にご協力頂ければ幸いです。

●立野ダムによらない自然と生活を守る会 結成以降のあゆみ

2012. 5.19 「立野ダムによらない自然と生活を守る会」結成集会（約40名参加）。

- 7.12 白川流域で集中豪雨。
- 7.15 今本 博健氏（京都大学名誉教授）が白川水害の現地視察。
- 7.22 会の有志で龍田町陣内の災害復旧ボランティアに参加。
- 7.24 菊陽町に「7. 1 2洪水に関する要望書」提出。意見交換。
- 7.26 熊本市と熊本県に「7. 1 2洪水に関する要望書」提出。意見交換。
- 7.28 金井塚 務氏（広島フィールドミュージアム）北向谷原始林を現地調査
- 7.29 第2回立野ダム予定地見学会。「北向谷原始林シンポジウム」（大津町オークスプラザ、30名参加）
- 8. 9 国土交通省立野ダム工事事務所に「白川の河川整備計画の変更と『立野ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場』に関する要望書」を提出
- 8.13 熊本市に「立野ダム促進陳情への抗議文」を提出。
- 8.29 国土交通省立野ダム工事事務所に『複数の治水対策案の立案』に関する要望書を提出

●7・12洪水検証と白川流域自治体や熊本県への働きかけ



今本先生を迎えて水害の被害調査 2012.7.15

熊本県内は7月12日午前、記録的な豪雨に見舞われ、白川は22年ぶりに越水しました。洪水当日より私たちは、洪水被害や洪水痕跡の調査に白川流域を走り回りました。7月15日には、河川工学の第一人者である、京都大学名誉教授の今本博健氏を迎え、白川の越水箇所を調査しました。

洪水の検証や求められる治水対策をレポートや要望書にまとめ、国土交通省や熊本県、流域市町村へ提出しました。ほかにも熊本県議会議員への説明、流域市町村議員への資料送付などを積極的に行いました。要望書の主旨は以下3点です。

- ①今回の豪雨で浸水被害を受けたのは、河川改修が未完成の地区ばかりであること。
- ②立野ダムの洪水を貯める容量は、想定した洪水を調節する分しかなく、今回の洪水のような想定以上の洪水ではダム湖は満水になり、「洪水調節ダム」として機能しなくなること。
- ③現行の河川整備計画では中流域（大津町、菊陽町）の整備計画が未策定であるなど不十分であり、ダムによらない河川整備計画に変更すること。

立野ダムの「受益地」とされる熊本市では、幸山市長が立野ダムの早期着工を国土交通省などに要望。自民党熊本市議団も「立野ダム建設促進を求める意見書」を準備中です。流域自治体の首長や議員に対して、これからも粘り強く働きかけようと思います。



熊本市に要望書提出 2012.7.26

白川カヌー下り紀行

8月26日、熊本市内の白川をはじめてカヌーで下りました。黒髪の竜神橋をスタートし、市中心部を通って、十禅寺のJR豊肥線鉄橋まで約1時間半かけての川下りでした。川から見上げる白川護岸や熊本市は緑が多く、さすがは「森の都」。この角度からの風景を見た人はまずいないだろうな、多くの人に見て体験してほしいなと思いました。

大甲橋の下で市電の通る音と川の流れる音を同時に聞いたり、古い木の橋脚の跡もいくつかあり、昔の白川の姿を想像できました。架け替えの対象になっている竜神橋や明午橋で川幅が非常に狭くなっていることもよくわかりました。

7・12洪水では土のうが並べられ、越水しかけていた銀座橋周辺も堤防工事が始まり、鋼矢板が打ち込まれていました。河川の勾配がゆるくなる長六橋を過ぎてからは、川底に大量の火山灰が堆積しているのがよくわかりました。熊本市の治水にはこれを撤去するのが先決だと思います。

水の透明度は60cmくらい。危険な箇所は全くありませんでした。多くの方に白川のすばらしさを体験してほしいと感じました。カヌー体験を希望される方はお知らせください。



カヌーから見た熊本市内 2012.8.26

●「ミニ集会」開催にご協力ください

多くの方々に立野ダム問題について知っていただくために、「立野ダムを考えるミニ集会」をあちこちで開きたいと思います。ご連絡いただければスタッフが会場を訪れ、スライド上映などを行います。少人数から開催OKです。

●定例会のお知らせ

月1回程度、定例会を開きます。是非ご参加ください。10月までの定例会の予定です。

○9月26日(水)午後7時より

○10月17日(水)午後7時より 場所は熊本市パレアルーム(鶴屋東館9階)

編集後記 5月に会を結成し、まずは多くの皆様に立野ダム建設予定地周辺の自然のすばらしさを知っていただくとう「北向谷原始林シンポジウム」を計画し、広く呼びかけようとしていた矢先、記録的な豪雨に見舞われました。災害後、私たちも龍田町陣内地区の災害復旧ボランティアの参加しました。床上浸水のお宅は床をはがし、壁をはがして、その廃材を搬出し、床下などにたまった泥を搬出するわけですが、阿蘇の火山灰が家の基礎部分やあちこちの隙間という隙間にたまっていて、それは大変な作業でした。9月22日に「7・12白川水害を検証する会」と総会を、熊本市・パレアで開催します。是非ご参加ください。これから活動を広げていくために、皆様のお考えやアイデアを募集します。封筒に書いてある連絡先までお知らせください。会からメールマガジン(無料、不定期)を配信しようと思います。希望される方は、ogt-hawks@s8.kcn-tv.ne.jp 緒方までメールを！(N.O.)